

成果指標				
成果指標	1件当たりの医療費助成額＝年間扶助費÷医療費助成対象件数			
指標設定の考え方	1件当たりの医療費助成額を指標とし、障がい者の経済的負担の軽減の成果を測る。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標27年度
目標	6825	6409	0	0
実績	6489	6172	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	給付されるべき医療費が給付されないことがないよう、対象となる障害手帳の交付を受けた方に対し、届出を行っていただけるよう、所管である福祉課と日常的に連携しなければならない。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	関係部署と連携を深め、制度が安定的に運営されよう、積極的に制度の周知を図る必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	評価委員会抽出事業

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	・この事業自体は必要なことだと思う。・課題認識にある、所管である福祉課と日常的に連携しなければならない、関係部署と連携を深め、というのが気になった。医療費の助成事業が担当ということなので、いたし方ないと思う。
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	